# 不運の名士・長 晴登

## 日本初の観光自動車業を興した男

葛飾区民記者・かつしかＰＰクラブ

隅田　昭

# まえがき

*地元烏帽子山八幡宮の一本杉*

私事だが以前に働いていた、官公庁に運転手を斡旋する業者で、元タクシードライバーの男性と親しくなった。

彼に「クルマを営業したなかで、どこがいちばんでしたか？」と尋ねたことがある。少し考え、彼はこう答えた。「やっぱり山形かな。なにを食べても美味いし、どこを走っても気持ちいいし、人がみんな優しい。都会じゃ収入とか職歴とか聞かれて、分け隔てするからね。山形がいちばん働きやすかったな。日本ではじめてタクシー会社を創ったのも、米沢出身の代議士だよ」

私はそれを想いだし、勤めていた転職先に夏期休暇をもらった。お盆の帰省ラッシュは渋滞するので、深夜に一般道を自家用車で走る。

東北道の山間部でＦＭも届かなくなった。カーナビをＳＤメモリに替える。８０年代ポップスが耳に心地よく、雑念から少しずつ解放された。

# もくじ


１．まえがき
２．米沢で生まれた功労者
３．長　晴登は嫌われ者か
４．文明の利器を見通す眼
５．同郷の友と交通網整備
６．あとがき
７．信じる力は後世に残る

# 米沢で生まれた功労者

タクシーやハイヤーなど、日本で初めて観光自動車業を興したのは、山形南陽市赤湯出身の長 晴登（ちょう はるのぶ）という国会議員だ。

米沢興譲館（米沢中学）を経て慶応義塾大学に進み、師範学校教員免許試験にも合格するが、本人の意志もあって教師にはならなかった。

地元では著名な人物で、温泉旅館を営んだり、平清水陶磁器という会社を興したり、山形自由新聞社を設立するなど、財界で活躍していた。

*地元烏帽子山八幡宮の境内*

明治 37 年（1904 年）に衆議院議員となり、以後４回連続で当選する。国会の会期中には難航していた、南陽市の国有林払い下げ中止運動に介入し、撤回に成功したそうだ。その後も地元経済の発展に貢献する。

明治 45 年（1912 年）七夕の 7 月 7 日に、有楽町の数寄屋橋近くで、有名人も呼んで華々しく、日本初の観光自動車会社設立を発表した。

当時は人力車が闊歩しており、庶民が気軽には乗れなかった。しかし導入したＴ型フォードは物珍しく、新しもの好きの江戸っ子に評判となる。同年の 8 月には早くも日本橋で、2 番目の観光会社も創立した。

# 長 晴登は嫌われ者か

国立国会図書館で旅行前に調べたところ、興味深い記述に出会った。

大正 4 年（1915 年）に吉野 鉄拳禅（よしの がじょう）が記した長 晴登の人物紹介である。吉野は人気文士だったらしいが、くだけた内容だ。

*赤湯温泉に残る老舗旅館*

長 晴登は山形県選出だが、代議士は表看板だけで、盛んに賭け事を行っている。金貨の音を聞かなければ、溜飲が下らぬと云う男だけあって、便所まで行くにもポケットに手を突っ込み、金を探りながら歩く。

さすがの政友会でも、この男の利権追及には鼻をつまんでいる。ただ、金儲けが好きだから、名誉心が無いのかと言えば、そうでもない。

政友会の幹事か何かになりたがって、盛んに運動する事もある。そんな時は、彼の成り上がりで田舎者な性格を知っている連中が、むりやり財布の底を叩かせ、ごちそうさせた挙句に陰でこそこそ笑っていた。

第 25、26 議会の頃は、代議士になった珍しさに、議会の形勢も見れず、「それ、動議だ。やれ、建議だ」と騒いでいた。しかし、所詮は成り上がりだから、議長からお目玉を食らって、すぐ大人しくなる。

# 文明の利器を見通す眼

そんな彼は最近、タクシー自働車の株式会社を発起して、その代表となり、毎日暇を見つけては、数寄屋橋内の事務所に出勤している。

しかし、一刻もじっとしておられぬ性分と見えて、専務や支配人のやる事なすこと気に入らぬらしい。購入した自動車の整備はもちろん、日常の掃除までも監視するといった風で、ケチなことおびただしい。よほど金銭に汚く、だらしがないタチなのだろう。

*烏帽子山八幡宮の大鳥居*

彼は臆することなく、議場でも自らの主張をこう言い放つ。

「エヘン、自動車は文明の利器だ。これを利用する者は、自動車同様に活躍せずに、他で何をするものぞ」などと、得意然としている。

長社長は近未来に、活動の模範を示しているつもりなのだそうだ。

しかし、彼はもとより主義のある男ではない。政治も素人同然だ。

多数を占める政党ならば、横暴を極めても差し支えないくらいに解釈しているのだから、議会にとってはたまらない。

# 同郷の友と交通網整備

一昨年の 11 月頃、彼は同郷の小林源蔵とグルになって、郵便鉄道の敷設を有力者に持ち掛けた。それは山形の政治経済をかく乱した、彼が得意とする芸当であった。こういう利益追求者は、今にとんでもない事件をしでかすかもしれん。考えただけでも背筋が寒くなる。

しかし、議会は腰抜けの集まりではない。所詮彼は代議士として成功せず、実業界でも台頭せず、みな失敗するだろう。（現代語訳で要約）

*結城豊太郎記念館から望む*

吉野氏の記述から、男の嫉みが手にとるように分かる。躍進する者を潰そうとする意図が甚だしい。いつの時代も悪口ほど醜い言葉はない。

高台から米沢市内を一望できる、烏帽子山八幡宮の職員に話を聞いた。

「この神社は寛治七年（1093 年）に、源氏の加茂二郎義綱が祠（ほこら）を建て、武運を祈ったのが起源で、千年近い歴史を誇っています。

昔の米沢は尾花沢と並んで、多くの湯治客で賑わっていました。ですから、温泉業で財を成した長社長や、鉄道事業で活躍された小林議員、それに元日銀総裁の結城先生など、多くの名士を輩出したのでしょう」

# あとがき

当時の読売新聞はタクシーの開業を、以下のように伝えている。

「麹町区有楽町５丁目１番地に、タクシー自働車株式会社なるものが設立された。同会社営業の特色とするところは、市内一定の駐車場に自動車を配置し、乗客を待ち合わすことで、途中でも空車の場合には乗客の求めに応じる。（中略）賃金は最初の１マイル（1.6ｋｍ）に限り 60 銭、その先は半マイルを増す毎に、拾銭を加えるほか、雨雷、夜中、市外などは特別料金を取り、乗客は１人から３人までで、料金は同一である」

*当時の庄屋を再現した温泉旅館*

末裔のご家族は高層マンションの１階で、金物店をひっそりと経営されていた。取材を申し込むも、「写真や談話は勘弁してください。ただ、先祖の功績は、代々守っていきます」と、すげなく断られてしまった。

長 晴登氏は憎悪の波にのまれ、志半ばで急逝した。だが彼が今の交通事情を知ったら、手放しで喜ぶだろう。帰路は渋滞だったが胸が弾む。

「良く思われるより、信じる道を進もう」と、決意がみなぎったからだ。

# 信じる力は後世に残る

◆ 写真・文章・編集：隅田 昭

◆ 撮影：平成 30 年　8 月 18 日

◆ 発行：平成 30 年 11 月 18 日

本冊子の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、
法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。